

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名 (地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
洲本市	鮎原宇谷	令和2年3月	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	24.2 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計(地図による図測面積)	14.8 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計(地図による図測面積)	7.1 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	6.7 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.5 ha
(備考)	

- 注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
- 注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
- 注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
- 注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

地区内の農業者が6名しかおらず、内5名が5～10年後に70歳以上となる。
 その上、農地所有者の9割が後継者がいない状況であり、農地を維持するためにも新たな農地の担い手が必要である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

新たに認定農業者、認定新規就農者を中心として、現状の田畑を維持し、次の担い手がすぐに農業が行えるよう管理していく。
 県の事業である「地域創生大作戦」を集落で進め、集落入りし農業を担ってくれる方を受け入れる準備を整える。

注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
認農	A	水稲、玉ねぎ	2.0 ha	水稲、玉ねぎ	2.0 ha	
認就	B	玉ねぎ、野菜	0.4 ha	野菜	1.0 ha	
	C	水稲、玉ねぎ	0.7 ha	水稲、玉ねぎ	1.0 ha	
	D	水稲、豆	0.2 ha	水稲、豆	0.8 ha	
			ha		ha	
			ha		ha	
			ha		ha	

注1: 「属性」欄には、個人の認定農業者は「認農」、法人の認定農業者は「認農法」、認定新規就農者は「認就」、法人化や農地集積を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」と記載します。

注2: 「今後の農地の引受けの意向」欄については、現状からおおむね5年から10年後の意向を記載します。

注3: 「経営面積」欄には、プランの対象地区内における中心経営体の経営面積を記載します。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

2020年度の中山間管理事業を申請し、草刈りを行う為の管理費を入手し、非農家も含めて、田畑の維持に取り組む。

宇谷集落の模型を製作し、鮎原宇谷コミュニティプラザに配置。農地維持管理の重要ポイントを常に視認して共有できるようにする。合わせてため池の管理方法やパイプラインを確認し、現状一部の人しか分からない水管理を、後任が分かりやすいようにまとめる。

(参考)農地の貸付け等の意向(任意記載事項)

	農地の所在(地番)	貸付け等の区分(m ²)		
		貸付け	作業委託	売渡
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
	計			